

[特 集]

LGBTQ+の子どもたち

～多様な性を知ろう～



2023 年，G7 広島サミットが迫るなかで，日本以外の 6 か国と EU から
の要請もあり，LGBT 理解増進法が成立しました。これに伴い，学校や企業
においても性の多様性に関する研修や LGBTQ+（性的マイノリティ）当事
者への支援の動きが広がっています。

また，2022 年には，WHO の国際疾病分類（ICD-11）が発効し，従来の
「性同一性障害」は「性別不合」と改称され，分類も「精神疾患」から「性の
健康に関連する状態」へ移されました。これを機に，「医療モデル」として疾
患を治療するだけでなく，「生活モデル」として，教育や就労，さらに「性
と生殖に関する健康と権利」（SRHR）の課題にも対応することが求められま
す。2023 年，最高裁も，性別変更のための「性同一性障害特例法」の手術
要件（生殖不能要件）を違憲とし，手術をせず戸籍の性別を変更するラン
スジェンダー当事者が現れています。

このように，日本社会は大きな変化を迎えています。子どもたちに接する
人々は，言い出すことができず「封じ込められた」LGBTQ+の子どもたちへ
の支援のためにも，適切な知識を持つ必要があります。また，日本社会の未
来を担うであろうすべての子どもたちに多様性を認めあうことの重要性を伝
える役割があります。本企画が，それを実践する読者の方々の役に立てばと
願います。

（岡山大学学術研究院保健学域，岡山大学ジェンダークリニック，
岡山大学病院リプロダクションセンター／中塚幹也）

